

証券コード 6524

クオリティ企業をめざして

2026年12月期中間期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2026年8月6日

目次

I. 2026年12月期中間期 業績ハイライト	P. 2
II. 2026年12月期中間期 業績	P. 5
III. セグメント別の状況（リード端子）	P. 19
IV. セグメント別の状況（光部品・デバイス）	P. 26
V. 参考情報	P. 32

I. 2026年12月期中間期 業績ハイライト

2026年12月期(中間期)のハイライト

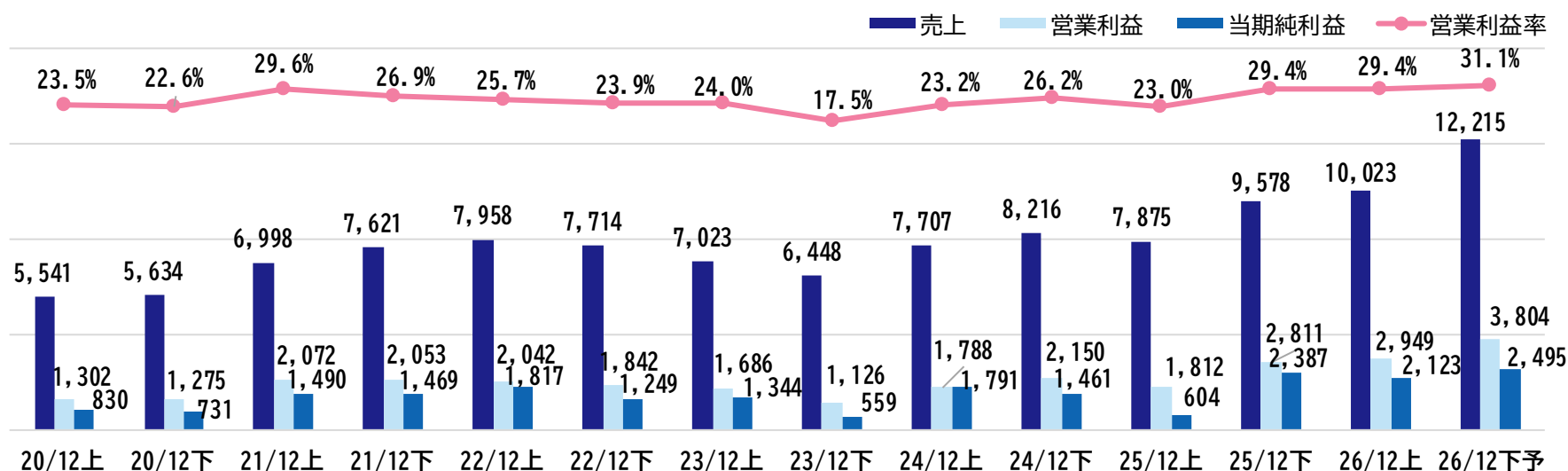
<業績概要>

- ・ 中間期の業績は前年同期比で売上が+27.3% (+2,147百万円)、営業利益は+62.7% (+1,137百万円)の増収増益となった
- ・ 光部品・デバイス事業は、2Qに入り全顧客向けに受注が伸長、新製品効果もあり売上・利益が大きく向上。リード端子事業についても売上増加と生産効率改善が進み、両事業ともに前年同期比で大幅な増収増益となった

<事業環境>

- ・ 海底ケーブル市場は、順調なプロジェクト投資を背景に光部品・デバイスの好調な受注が継続
- ・ 自動車関連市場では、中国EV市場の低迷、欧州市場の回復などまだら模様、全体としては横ばい傾向と推定
- ・ 情報通信インフラ市場では、AIサーバー・データセンタ市場が好調、売上に対してプラスの影響

売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率 (百万円、%)



2026年12月期業績の見通し

主力2事業ともに期初の計画に対して順調な進捗、下半期も好調に推移する予定 (単位：百万円)

<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2025年12月期	2026年12月期（計画）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	修正予想の前期実績比	
売上高	17,454	19,613	22,238	+4,784	+27.4%
リード端子事業	8,802	10,356	11,349	+2,547	+28.9%
光部品・デバイス事業	8,651	9,257	10,888	+2,236	+25.9%
営業利益	4,624	5,404	6,754	+2,130	+46.1%
営業利益率	26.5%	27.6%	30.4%	+3.9pt	-
リード端子事業	766	1,125	1,178	+412	+53.8%
光部品・デバイス事業	3,857	4,279	5,575	+1,717	+44.5%
経常利益	4,547	5,247	6,888	+2,341	+51.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,992	3,536	4,618	+1,626	+54.3%
1株当たり当期純利益（円）	114.73	136.51	178.29		
為替レート（期中平均）	149.62円/\$	150.00円/\$	160.00円/\$	（※160.00円/\$は、下半期の見通し）	

<現時点の状況>

- ・リード端子事業：自動車市場向けはますます堅調、AIサーバー向けについても売上が増加
- ・光部品・デバイス事業：旺盛な海底ケーブル投資を背景に受注増加が継続し下半期は売上成長が加速、新製品効果もあり利益面でも期初計画を大きく上回る見通し

※<為替感応度>は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

Ⅱ. 2026年12月期中間期 業績

損益計算書(中間期)の概要

両事業部門で改善傾向が継続、前年同期比大幅増収増益を達成

<前年同期比較>

	2025年12期	2026年12期		
	中間期 (1月-6月)	中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比
売上高	7,875	10,023	+2,147	+27.3%
リード端子事業	4,149	5,360	+1,210	+29.2%
光部品・デバイス事業	3,725	4,662	+937	+25.2%
売上総利益	3,253	4,516	+1,263	+38.8%
販売費及び一般管理費	1,441	1,567	+126	+8.8%
営業利益	1,812	2,949	+1,137	+62.7%
営業利益率	23.0%	29.4%	+6.4pt	—
リード端子事業	342	549	+206	+60.2%
光部品・デバイス事業	1,469	2,400	+930	+63.3%
経常利益	1,297	3,151	+1,854	+142.9%
親会社株主に帰属する 中間(四半期)純利益	604	2,123	+1,518	+251.0%
為替レート (期中平均)	148.41円/\$	158.29円/\$		

<前四半期比較>

(単位：百万円)

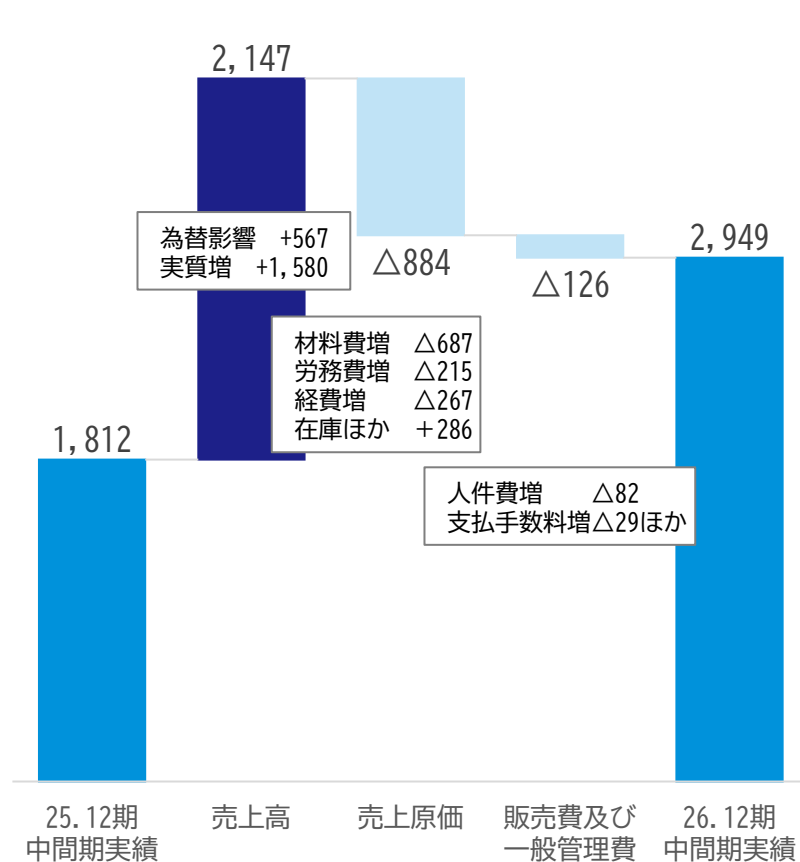
	2026年12期	2026年12期		
	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	対前四半期 増減	直前四半期比
売上高	4,544	5,478	+933	+20.5%
リード端子事業	2,516	2,843	+327	+13.0%
光部品・デバイス事業	2,028	2,634	+605	+29.9%
売上総利益	1,965	2,551	+585	+29.8%
販売費及び一般管理費	747	819	+71	+9.5%
営業利益	1,217	1,731	+514	+42.2%
営業利益率	26.8%	31.6%	+4.8pt	—
リード端子事業	209	340	+130	+62.6%
光部品・デバイス事業	1,008	1,391	+383	+38.0%
経常利益	1,327	1,824	+496	+37.4%
親会社株主に帰属する 中間(四半期)純利益	897	1,225	+327	+36.4%
為替レート (期中平均)	156.96円/\$	159.57円/\$		

営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

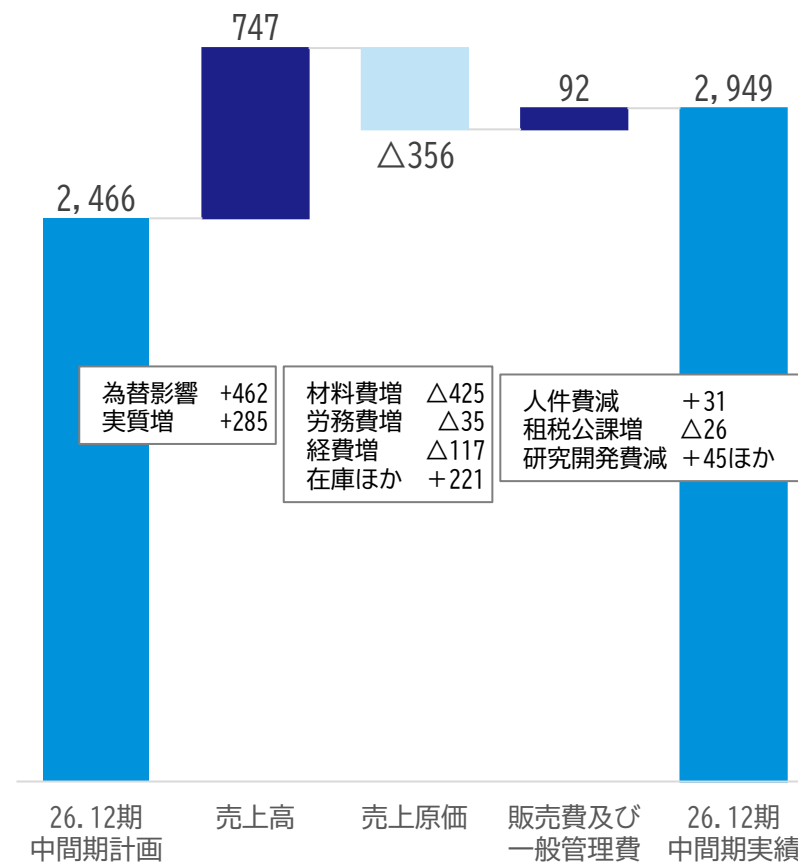
売上の増加がコストアップを吸収し、大幅増益



計画比

(単位：百万円)

売上増と計画比での円安が材料費増加を吸収



貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要(中間期)

(単位：百万円)

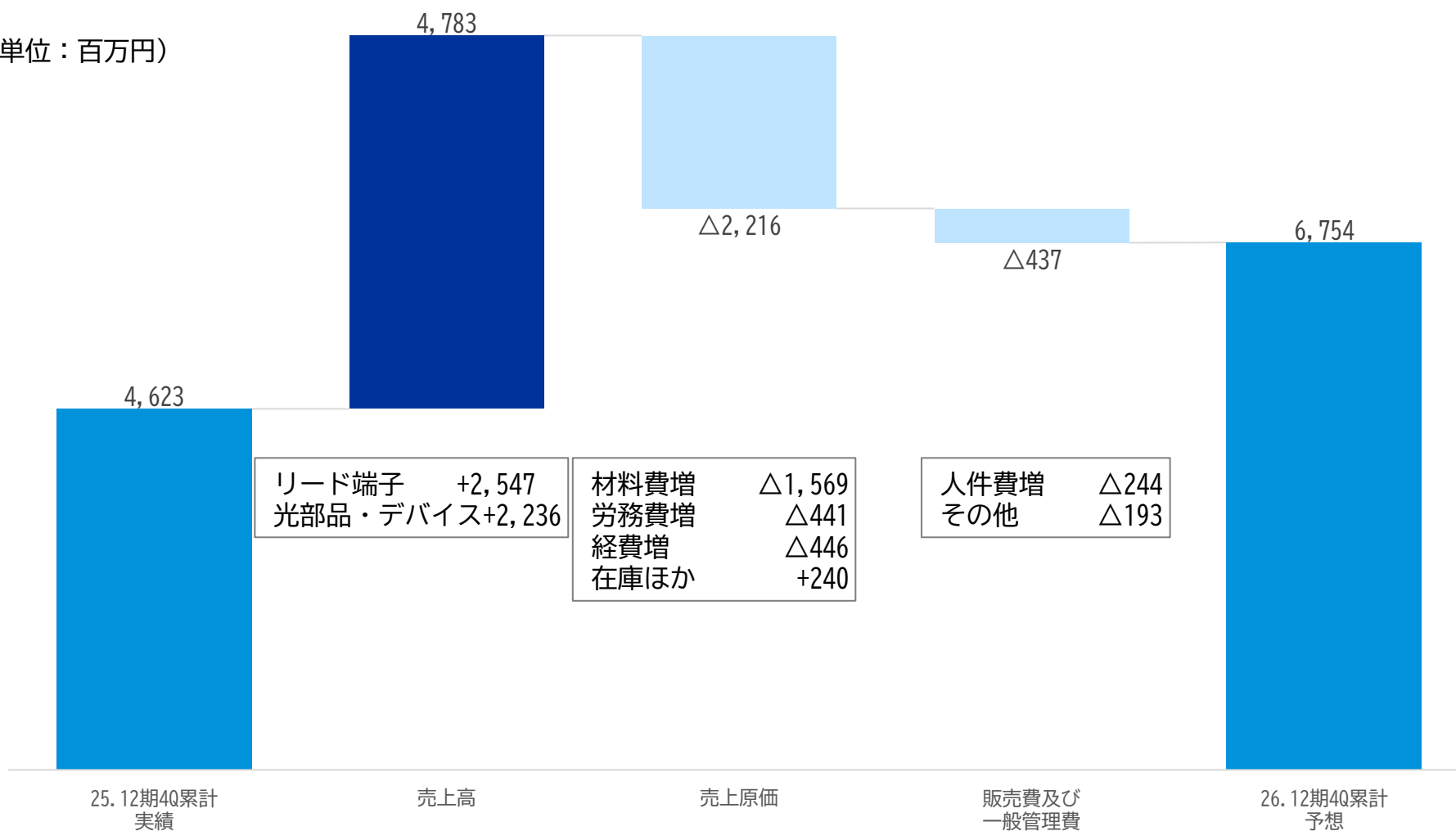
貸借対照表	25年12月期末	26年12月期中間期末	増減額	主な増減内容
流動資産	17,027	19,097	+2,070	現金及び預金 +2,487、電子記録債権 △1,146、有価証券 +297、原材料及び貯蔵品 +291ほか
固定資産	11,291	12,116	+824	投資有価証券 +513、機械装置及び運搬具（純額）+92、その他無形固定資産 +107、ほか
資産合計	28,319	31,213	+2,894	
流動負債	2,584	3,268	+683	買掛金 +239、未払法人税等 +411ほか
固定負債	2,293	2,456	+163	リース債務 +59、繰延税金負債 +106ほか
負債合計	4,877	5,724	+846	
純資産合計	23,441	25,489	+2,047	利益剰余金 +1,268、その他有価証券評価差額金 +328、為替換算調整勘定 +436ほか
負債・純資産合計	28,319	31,213	+2,894	

キャッシュ・フロー計算書	25. 12期中間期	26. 12期中間期	26. 12期中間期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	803	4,083	税金等調整前中間純利益 +3,151、減価償却費 +504、売上債権の減少額 +1,261、法人税等の支払額 △577
投資キャッシュ・フロー	△342	△863	有価証券の取得による支出 △298、有形固定資産の取得による支出 △463
フリーキャッシュ・フロー	461	3,220	
財務キャッシュ・フロー	△3,550	△925	配当金の支払額 △854
現金及び現金同等物の増減額	△3,278	2,487	
現金及び現金同等物の期末残高	6,520	10,905	

2026年12月期業績(営業利益)の見通し

リード端子、光部品・デバイスの主力2事業が売上増と営業増益に貢献

(単位：百万円)



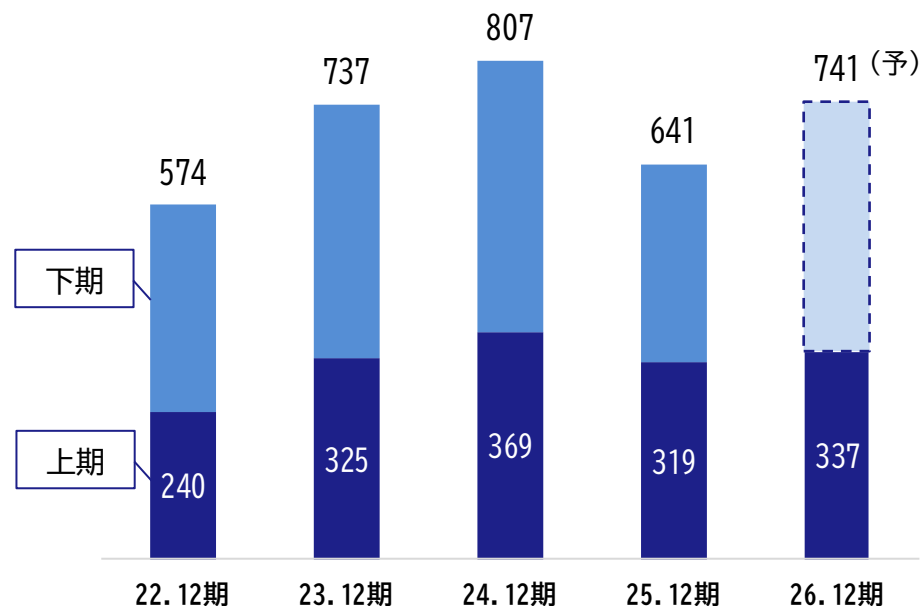
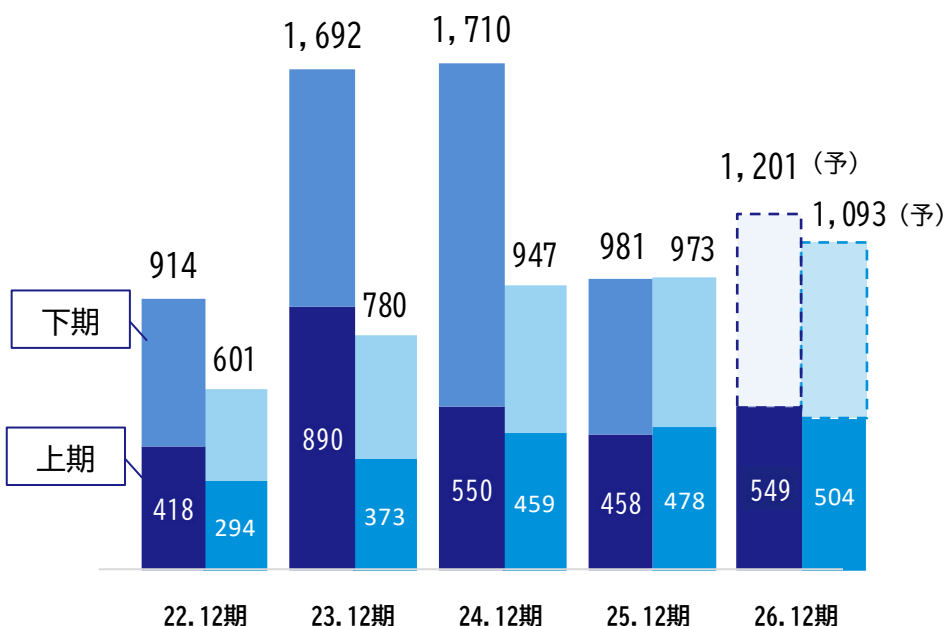
設備投資・減価償却・研究開発(中間期)

- ・ 高純度石英ガラス、海底ケーブル用光部品・デバイスの生産能力増強
- ・ リード端子レーザー溶接機、光部品・デバイスの脱炭素投資ほか若干の時期ずれが発生
- ・ 28年完成予定の米原事業所建設費用の一部（6億円弱）が、2027年にずれ込むため、設備投資予定は
期初計画（2,177百万円）から減額

設備投資額・減価償却費（百万円）

研究開発費（百万円）

設備投資額 減価償却費

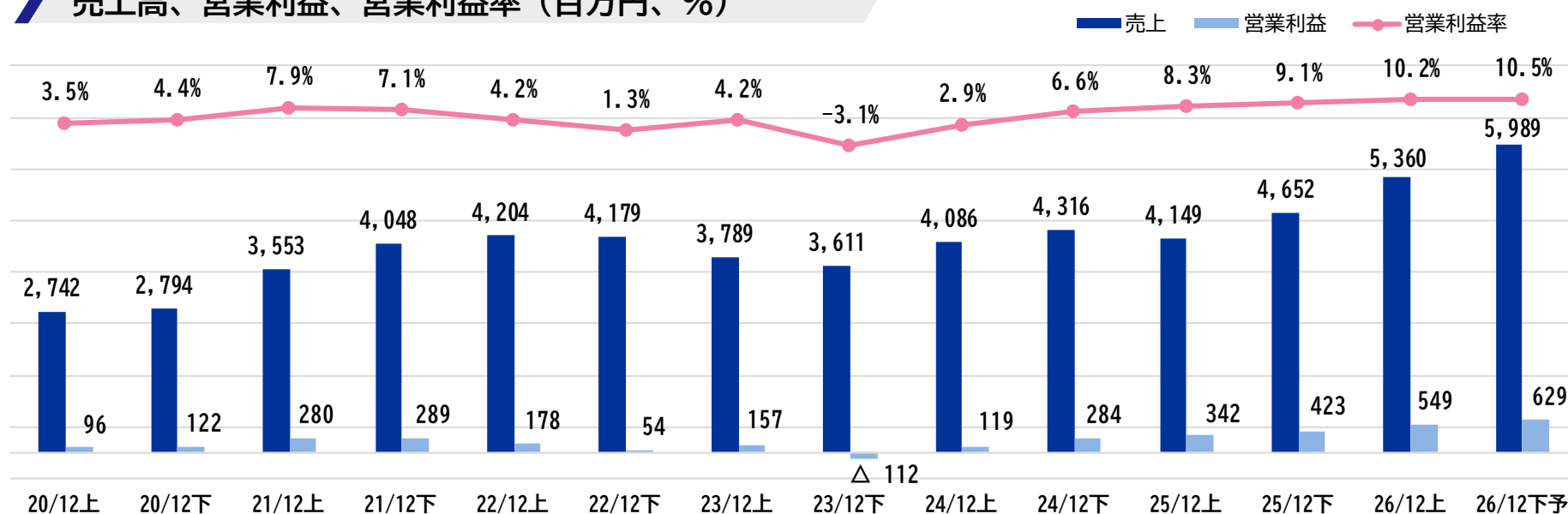


セグメント別業績(中間期)

- 自動車市場の回復は想定より緩やか、生成AIサーバー/データセンタ向けは売上比率が小さいものの、高成長
- 生産効率改善活動と適正価格の設定により収益力が改善

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2025年12月期 中間期 (1月-6月)	2026年12月期 中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	2026年12月期 1Q (1月-3月)	2026年12月期 2Q (4月-6月)	対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	4,149	5,360	+1,210	+29.2%	2,516	2,843	+327	+13.0%	
営業利益	342	549	+206	+60.2%	209	340	+130	+62.6%	
営業利益率	8.3%	10.2%	+2.0pt	—	8.3%	12.0%	+3.6pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率 (百万円、%)

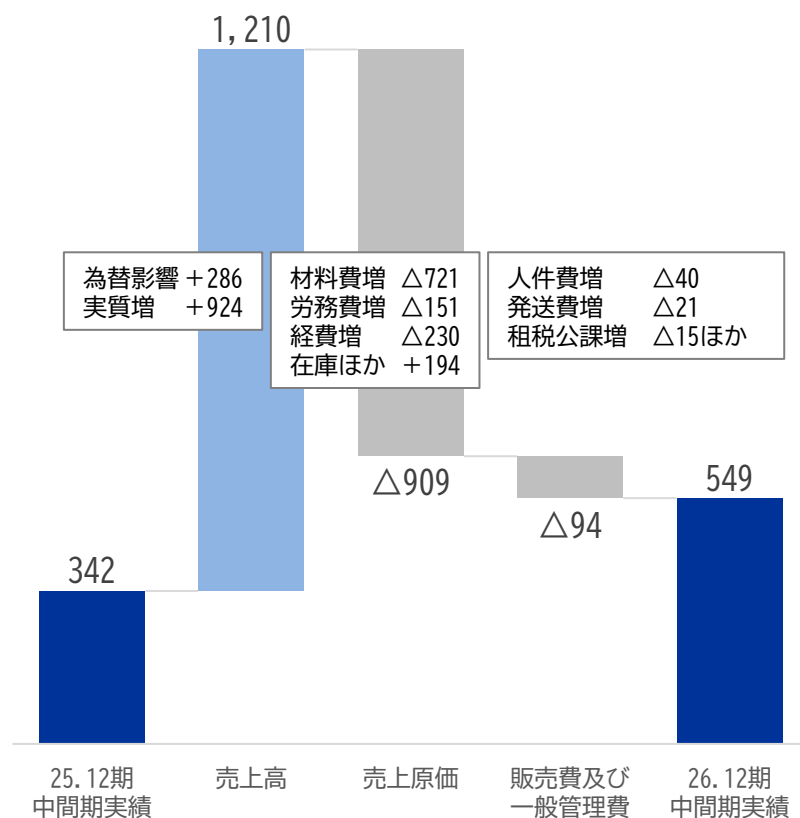


営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

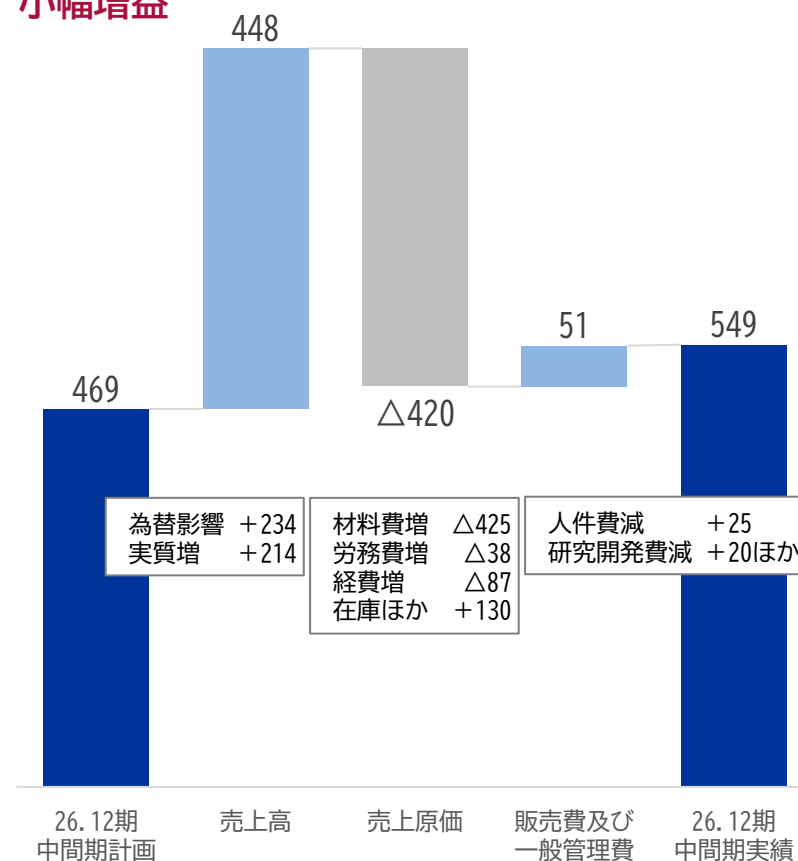
売上は大幅増加、材料価格上昇による先行コスト負担増を吸収して増益を確保



計画比

(単位：百万円)

材料価格上昇による先行コスト負担増により、小幅増益



リード端子事業の見通し

AIサーバー向け売上拡大と生産効率・プロダクトミックス改善等により、売上・利益の改善が続く見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2025年12月期	2026年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,802	10,356	11,349	+2,547	+28.9%
営業利益	766	1,125	1,178	+412	+53.8%
営業利益率	8.7%	10.9%	10.4%	+1.7pt	—

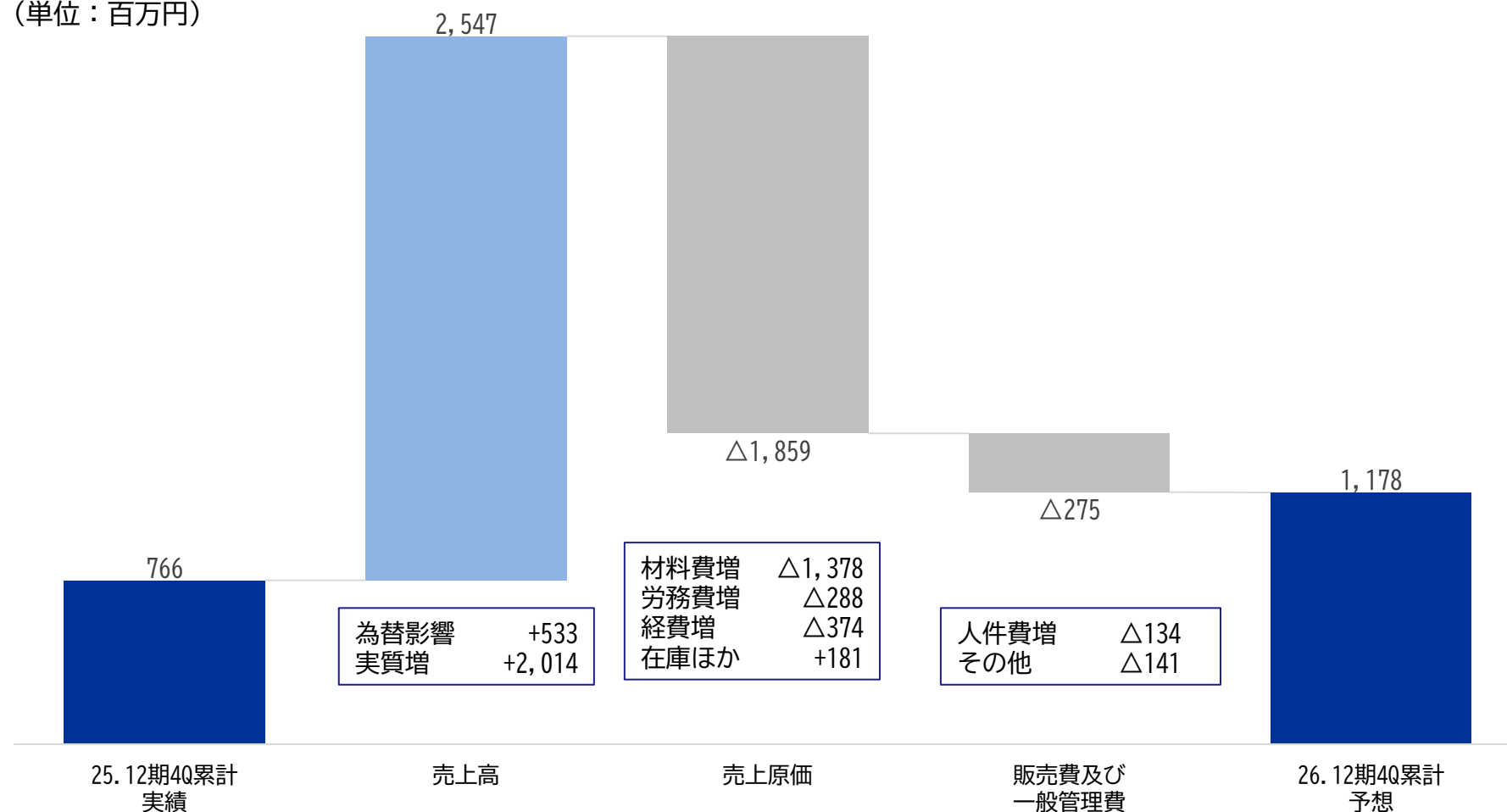
2026年12月期下半期以降の見通し

- 自動車市場向けは緩やかな回復が続く見通しだがAIサーバー向けは好調、材料価格上昇の価格転嫁もあり下半期の売上は期初計画を上回る見通し
- ボリュームゾーン市場向けは、PC市場低迷の影響等により伸び悩み
- 漏れ電流対策品、レーザー溶接品等新商品のラインアップ強化を急ぐ

セグメント別営業利益の増減要因（予想） - リード端子

生産効率改善、新製品売上拡大等により材料費等のコスト負担増を吸収し、増益を見込む

（単位：百万円）

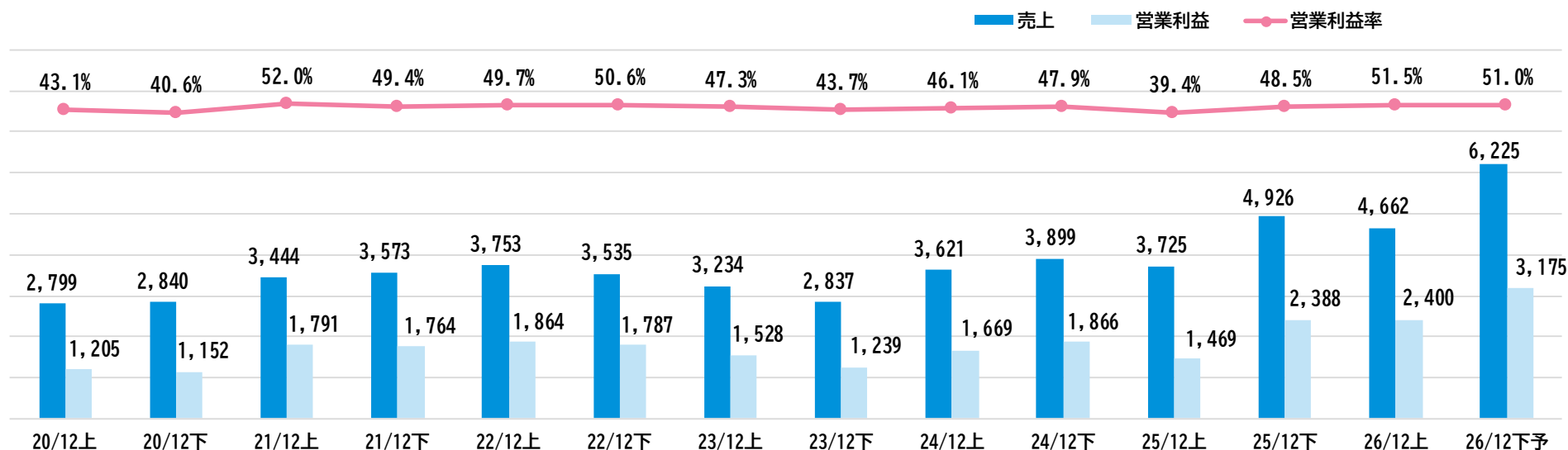


セグメント別業績(中間期)

売上の増加と製品構成の変化により売上・利益とも大きく増加

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2025年12月期 中間期 (1月-6月)	2026年12月期 中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	2026年12月期 1Q (1月-3月)	2026年12月期 2Q (4月-6月)	対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	3,725	4,662	+937	+25.2%	2,028	2,634	+605	+29.9%	
営業利益	1,469	2,400	+930	+63.3%	1,008	1,391	+383	+38.0%	
営業利益率	39.4%	51.5%	+12.1pt	—	49.7%	52.8%	+3.1pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率（百万円、％）

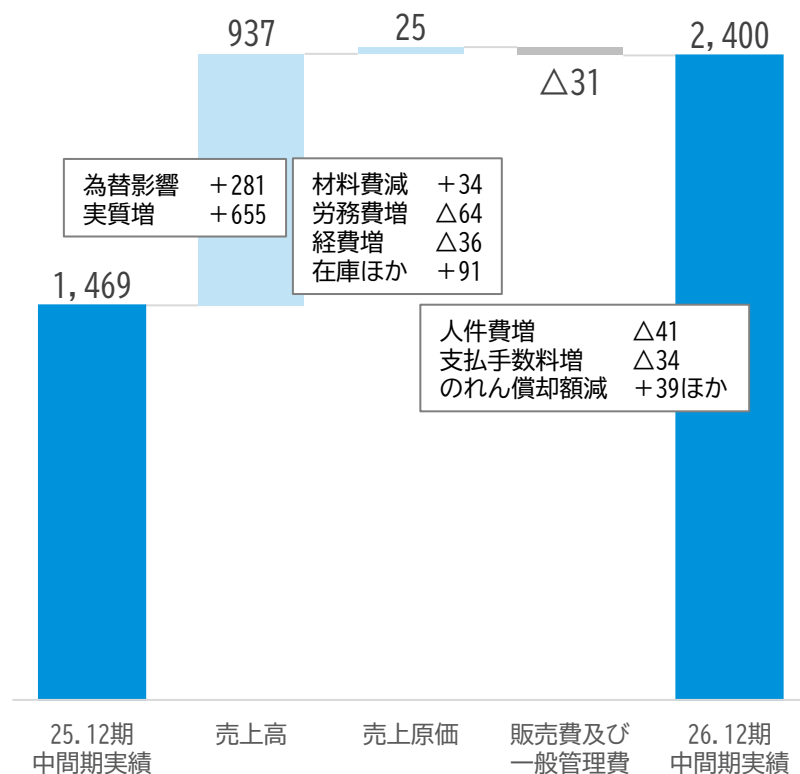


営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

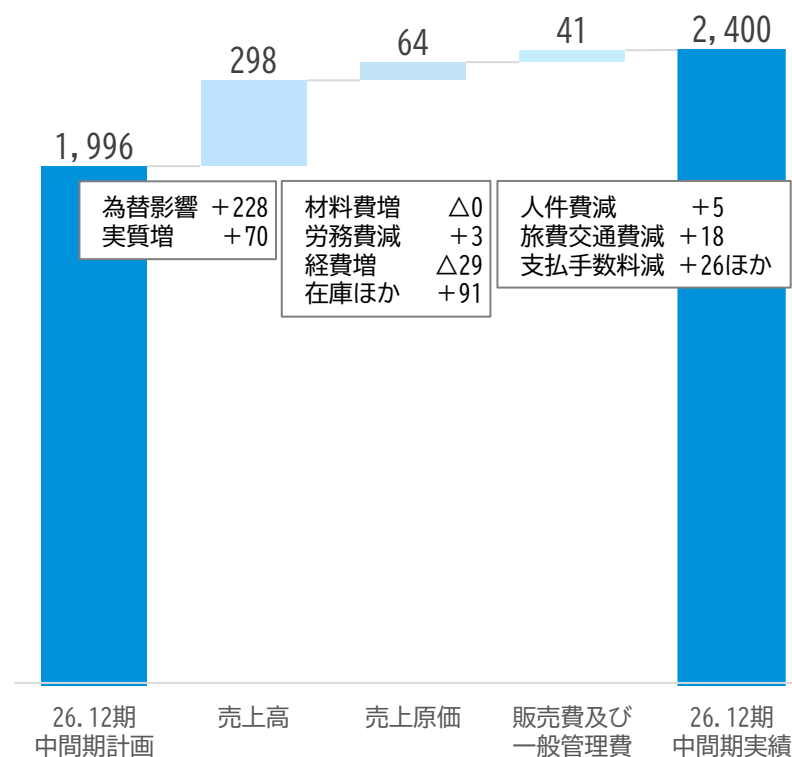
売上増加と、製品構成の改善により大幅増益



計画比

(単位：百万円)

円安及び在庫変動の影響等で計画比増益



光部品・デバイス事業の見通し

海底ケーブルプロジェクトの拡大見通しを背景に光デバイスの引き合いが増加、通期の売上利益は期初計画を上回る見通し

(単位：百万円)

	2025年12月期	2026年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,651	9,257	10,888	+2,236	+25.9%
営業利益	3,857	4,279	5,575	+1,717	+44.5%
営業利益率	44.6%	46.2%	51.2%	+6.6pt	—

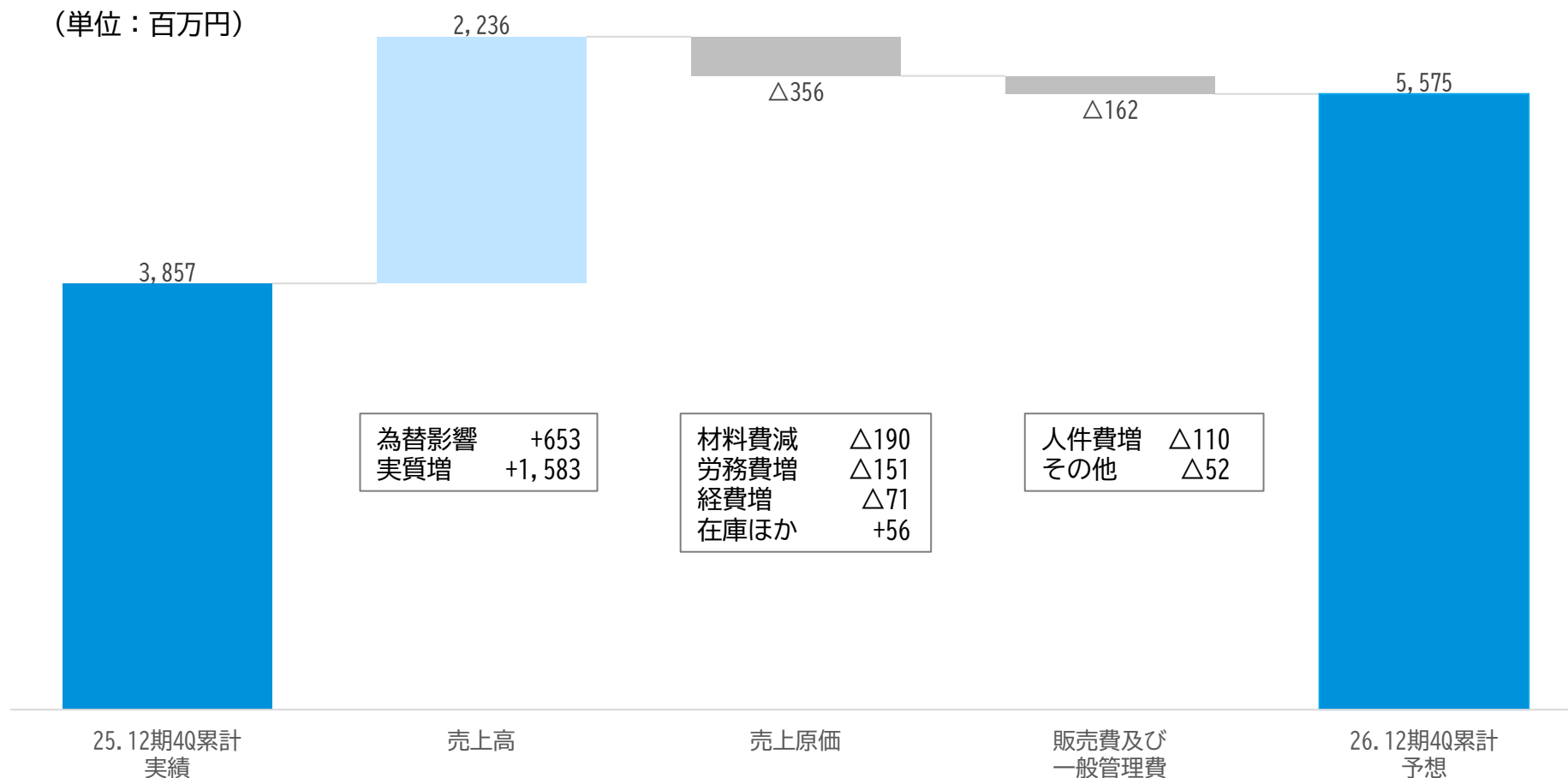
<2026年12月期下半期以降の見通し>

- ・ 海底ケーブルプロジェクトの大型案件向け受注がスタート、売上は増加傾向継続の見通し
- ・ 多芯化ニーズへの対応により、小型・複合製品の売上拡大傾向が続く
- ・ 2027年に向けての光アイソレータ・光フィルタの引き合いも堅調、本社（前工程）、スリランカ（後工程）での生産能力増強を進める
- ・ レアアース等の材料価格高騰の影響は軽微、調達強化により安定供給体制を維持

セグメント別営業利益の増減要因（予想） - 光部品・デバイス

海底ケーブル用光デバイスの売上増加と製品ミックス改善により、大幅増益の見通し

(単位：百万円)



Ⅲ. セグメント別の状況（リード端子）

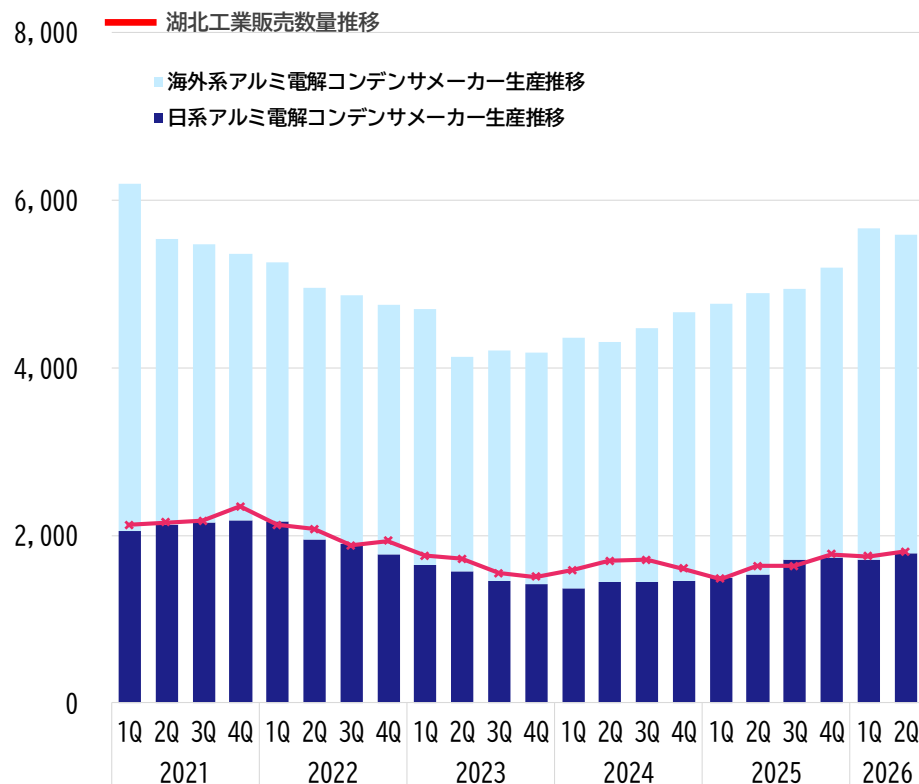
事業環境

アルミ電解コンデンサは、AIサーバー市場の急成長がプラス要因だが、自動車市場の回復遅れと材料価格上昇の影響により、市場回復は緩やか

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移

市場動向・営業施策

(百万個)



<自動車関連市場>

- 欧州・中国市場などで回復力が弱い状況が続く
- インド・ブラジル等新興国市場は好調。
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサなど高性能コンデンサの生産数量は増加傾向。

< AIサーバー・データセンタ市場>

- 日系コンデンサメーカー向けに加え、海外顧客向けにおいても受注拡大傾向
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサ新製品向けリード端子の引き合いが増加、今後の継続的な売り上げ拡大に期待

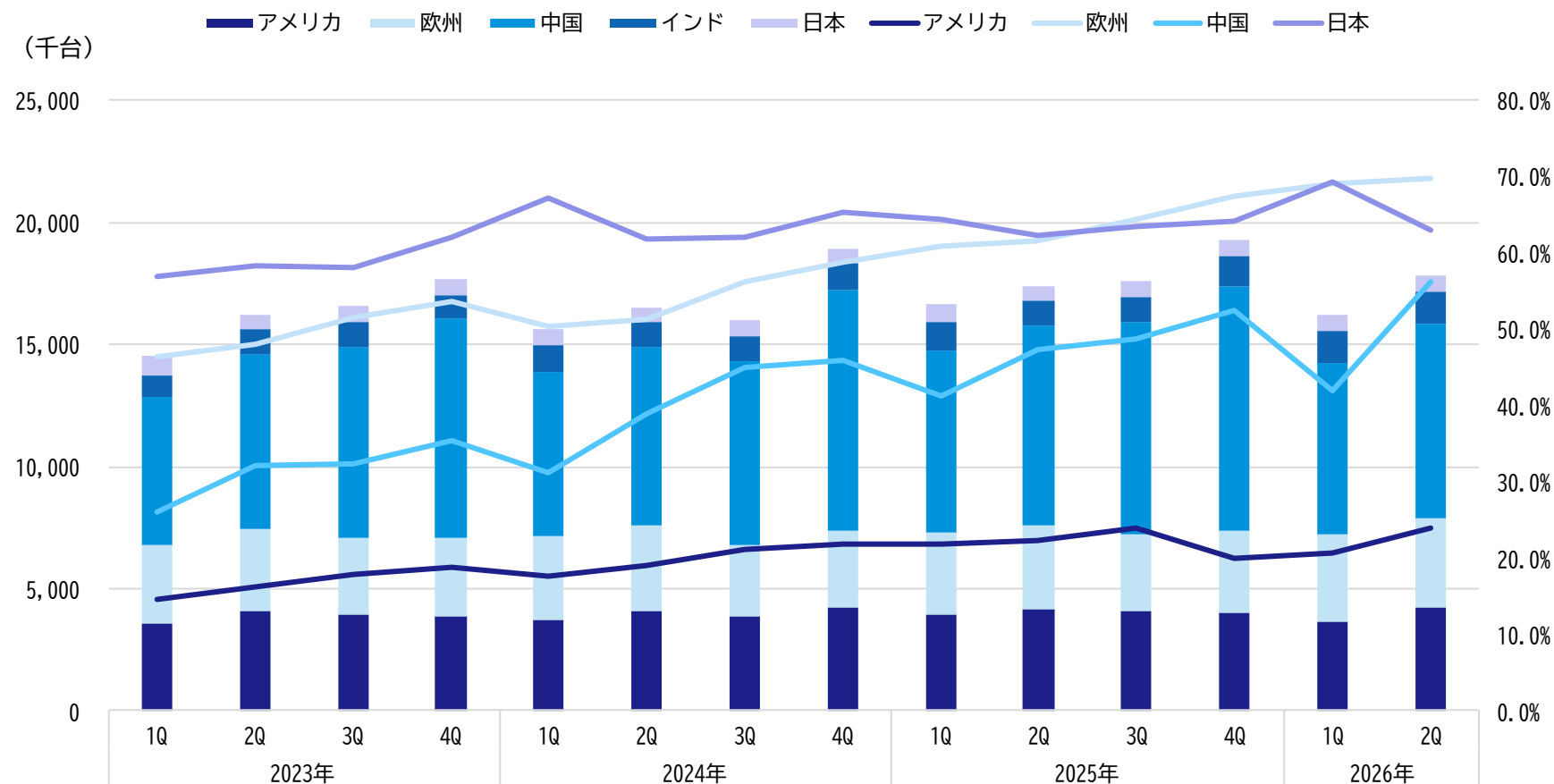
<民生機器市場ほか>

- 原材料価格上昇の影響、中国での景気停滞等により民生機器市場は厳しい状況が続く
- PC市場向けが非常に厳しい状況、今秋まで調整が続く見通し

※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

世界主要市場の自動車（乗用車）新車販売台数、NEV比率の推移



出所：自販連、Argonne National Laboratory、acea、CAA、SIAM
 *NEVにはHV（HEV）、PHV、EV、FCVを含む

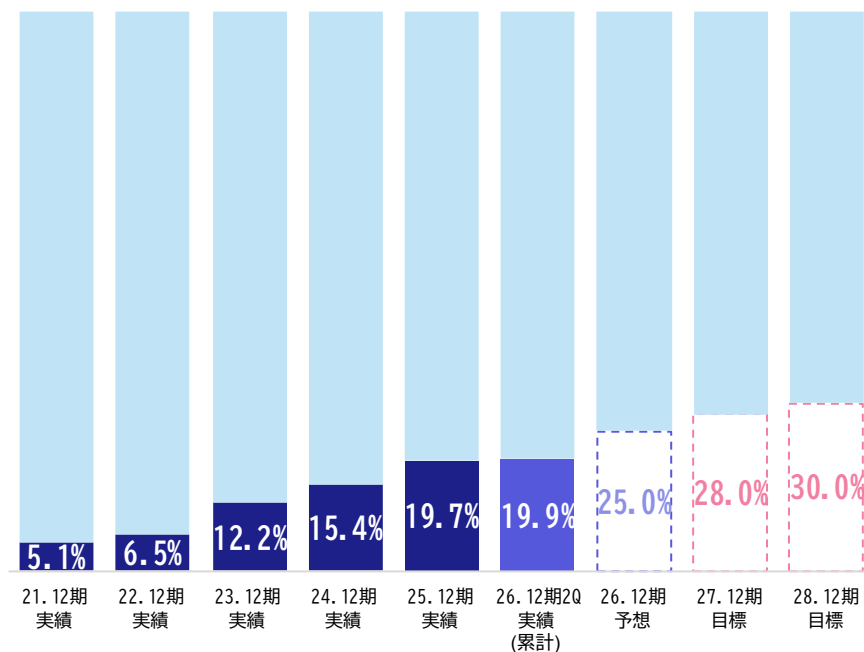
市場開拓による事業規模の拡大

車載関連市場向け及びAIサーバー向け高付加価値製品の引き合いが増加傾向だが、PC市場の低迷等により需要が鈍化

高付加価値製品の売上比率

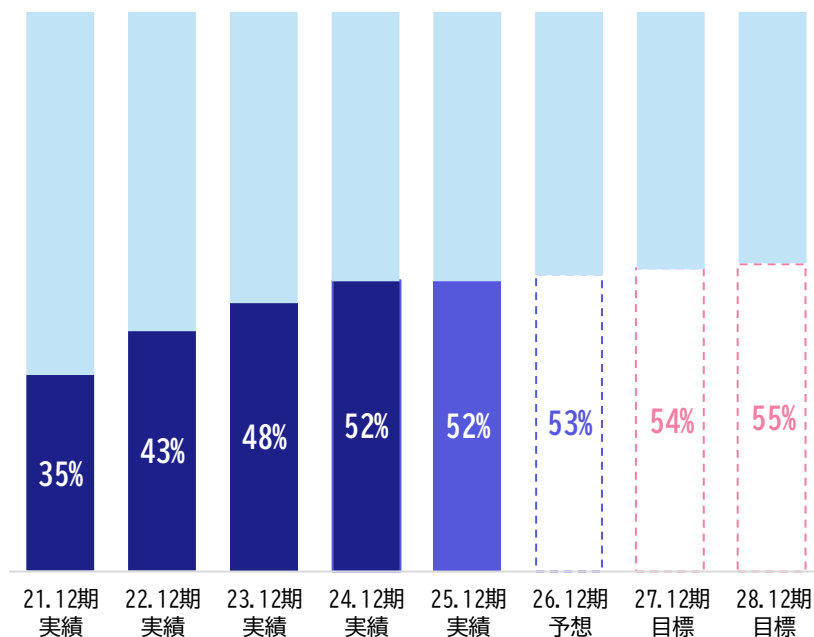


- ・樹脂コーティングほか漏れ電流対策に向けた各アイテムの採用が増加傾向
- ・レーザー溶接技術品（ニッケルメッキ品他）の開発強化



自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場（駆動系）向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場、AIサーバー・データセンタ市場での拡販を進める



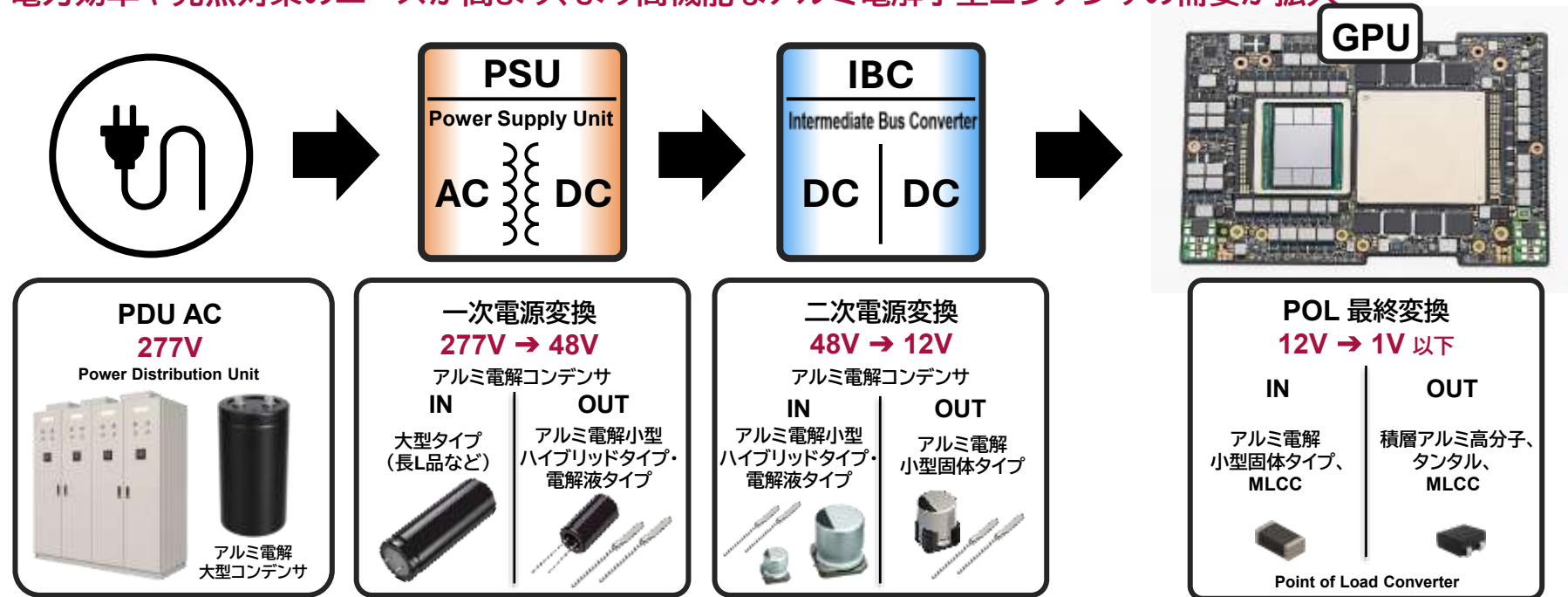
当社の状況と収益改善への取組み

当社の経営環境

	26年12月期当初（2月時点） コメント	2026/12期2Qの状況	2026/12期3Q以降の見通し
(1) 生産	● 本社工場で自動化・省人化を推進 ● 2026年年度OEE改善目標 87% ・調整不良削減 ・海外工場間での水平展開強化	➢ 本社工場での自動化・省人化・歩留まり向上と高付加価値製品の受注拡大に伴い、稼働率が上昇傾向 ➢ 2Q OEE 84.2%（連結）、海外工場間の支援活動を強化し、1Q 82.9%から改善傾向	➢ 高付加価値製品の生産能力増強と生産効率改善を継続 ➢ 年間目標達成に向けて改善活動を継続
(2) 売上	● グローバルで受注拡大を進める ● 高付加価値製品の量産受注を強化	➢ 海外市場での採用は進んだが、PC市場低迷により受注増加は緩やか ➢ AIサーバー向けハイブリッド・導電性高分子コンデンサ向け受注は堅調、車載市場向けの成長は緩やか	➢ バリレス等、高付加価値製品の売り込みを強化 ➢ AIサーバー・車載向け高付加価値リード端子の売り込みを強化
(3) 技術	● 2026年2月、顧客仕様ニッケルメッキタイプのサンプル出荷開始 ● サンプルアイテム拡大と量産体制構築 ● 車載・生成AI向けに重点を置いた樹脂コーティング、特殊化成品の売上拡大	➢ 本社工場にて開発課題をリストアップして継続取組中 ➢ 車載・AIサーバー向けを中心にサンプル供給増加 ➢ 樹脂コーティングほか漏れ電流対策品の引き合いが順調に増加	➢ 7月、顧客仕様のニッケルメッキタイプのサンプル提示 ➢ 引続き、低抵抗等の高付加価値アイテムの売り込みを強化

AI サーバー市場拡大に伴い、高信頼性リード端子が重要に

電力効率や発熱対策のニーズが高まり、より高機能なアルミ電解小型コンデンサの需要が拡大



GPU の高機能化



コンデンサ
使用量増加

求められるコンデンサ特性

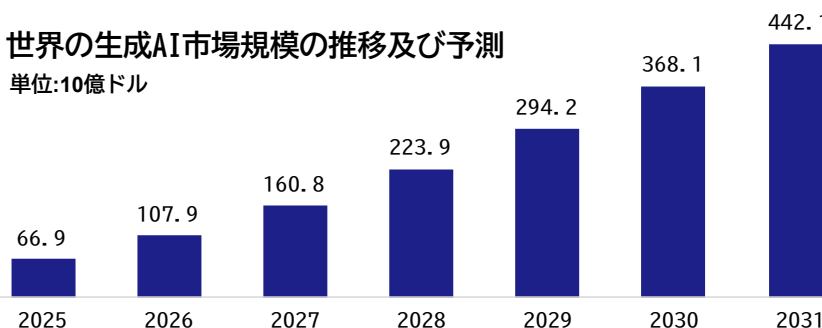
高付加価値製品の採用拡大

高耐圧、耐熱性
高リップル (低ESR)

高導電率品
バリレス
銅線リード

世界の生成AI市場規模の推移及び予測

単位:10億ドル



※ グラフは総務省『令和8年版 情報通信白書』より引用

バリレス

リード線



バリレス製品の断面図



CP線の断面図



バリレス製品の角部分拡大図

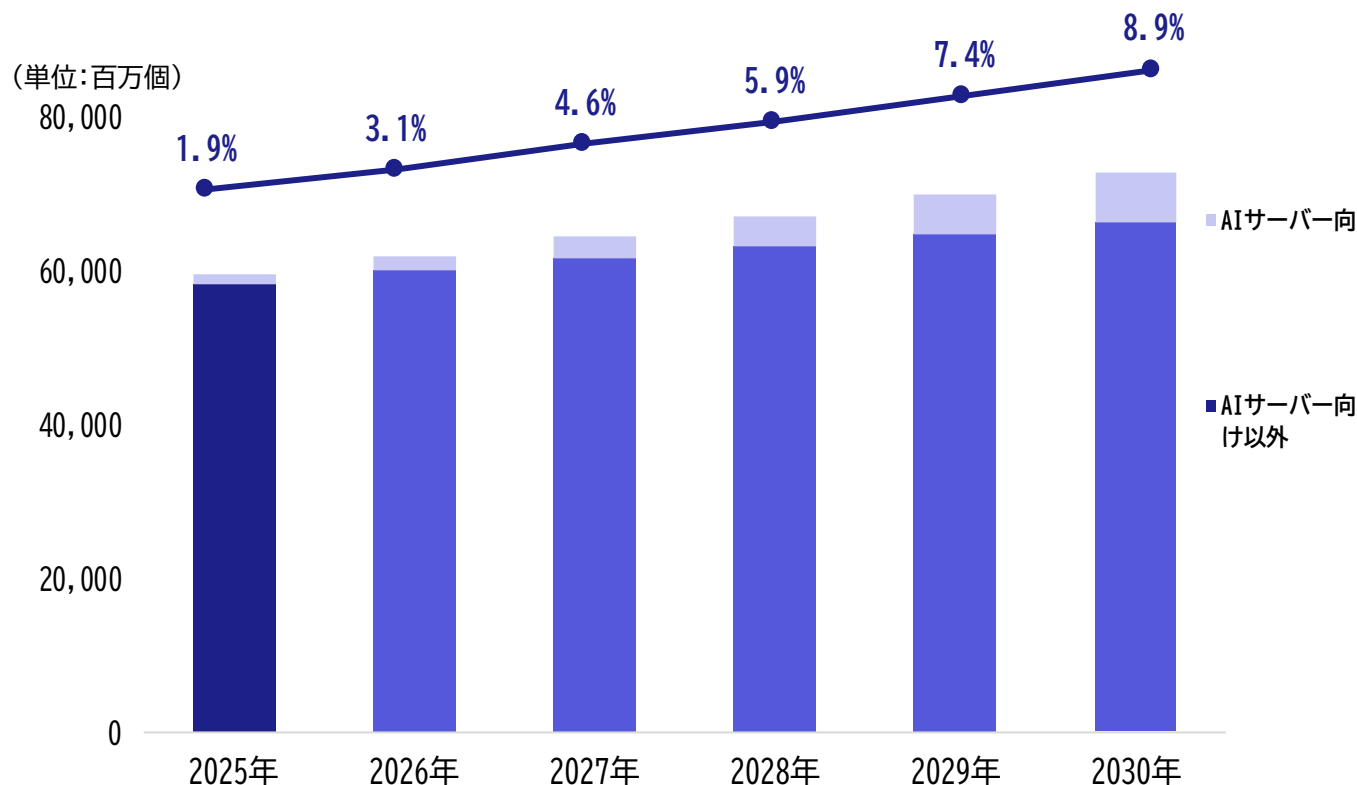


Cu線の断面図

AIサーバー市場の動向と当社の施策

小型アルミ電解コンデンサにおいて、5年後、AIサーバー向けが市場の10%弱まで成長すると推定

小型アルミ電解コンデンサ市場とAIサーバー向け比率の推移予想



- 自動車市場向けと同様に高品質・高機能の特長を生かし、63V、80Vコンデンサ向けの高付加価値品のラインアップを強化
- 2026年6月時点の当社売上に占めるAIサーバー向けは約7%と推定
(2026年3月時点では約3%)
- 生成AIサーバー向けコンデンサ市場における当社の市場シェアはかなり高いと推定

市場予想の前提

- ・コンデンサ市場全体の予想は、当社調査に基づく2025年のコンデンサ市場規模に、市場調査機関の予想伸び率を参照し、CAGR 4%と仮定
- ・AIサーバー市場向けコンデンサ市場規模と伸び率については、顧客ヒアリングに基づき当社作成

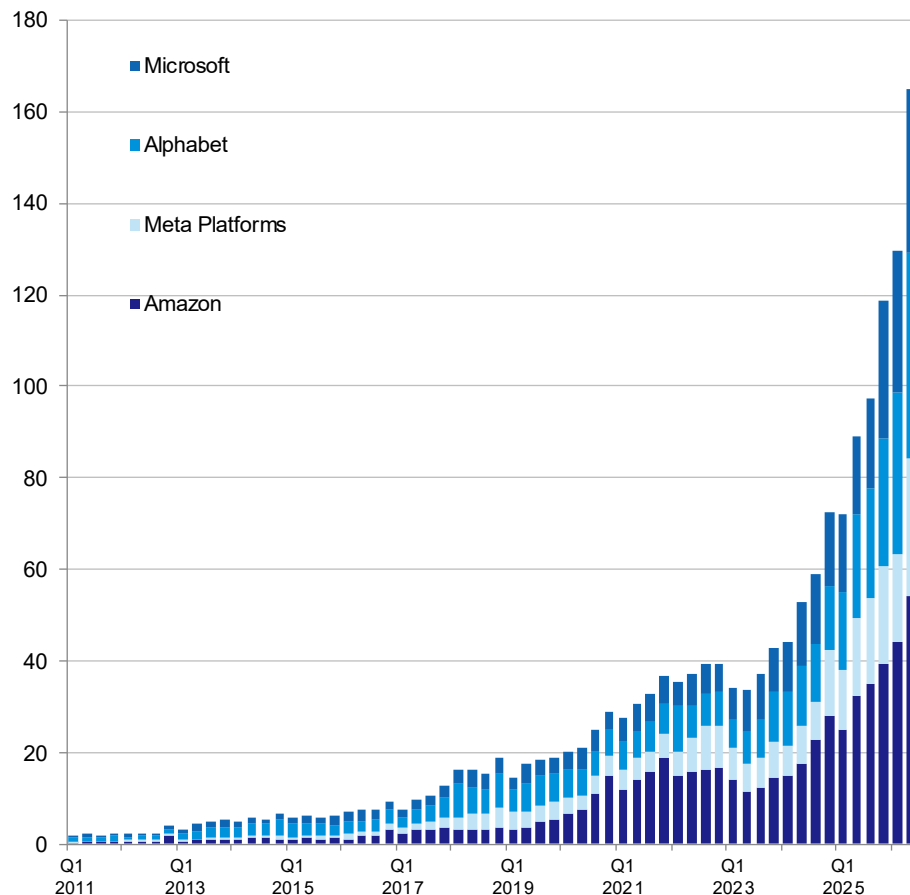
IV. セグメント別の状況（光部品・デバイス）

事業環境

AIサーバー・データセンタ向けに活発な投資が継続、海底ケーブルプロジェクトも拡大傾向

米国クラウド事業者の設備投資

(単位：十億ドル)



(出所：会社資料)

市場動向

- 海底ケーブル市場は大型プロジェクトのスタート、ケーブル敷設船増設等により増加傾向続く
- 海底ケーブルの多芯化に伴い従来型アイソレータは減少、小型アイソレータ、複合デバイスの需要が大幅増加
- 小型化・複合化に続いてモジュール化の需要が顕在化
- マルチコアファイバ対応製品は2027年から生産販売
- AIサーバー用光トランシーバ向けに光部品の需要は引続き増加、市場拡大が続く見通し

2026年12月期当初想定vs現在の状況比較 - 光部品・デバイス

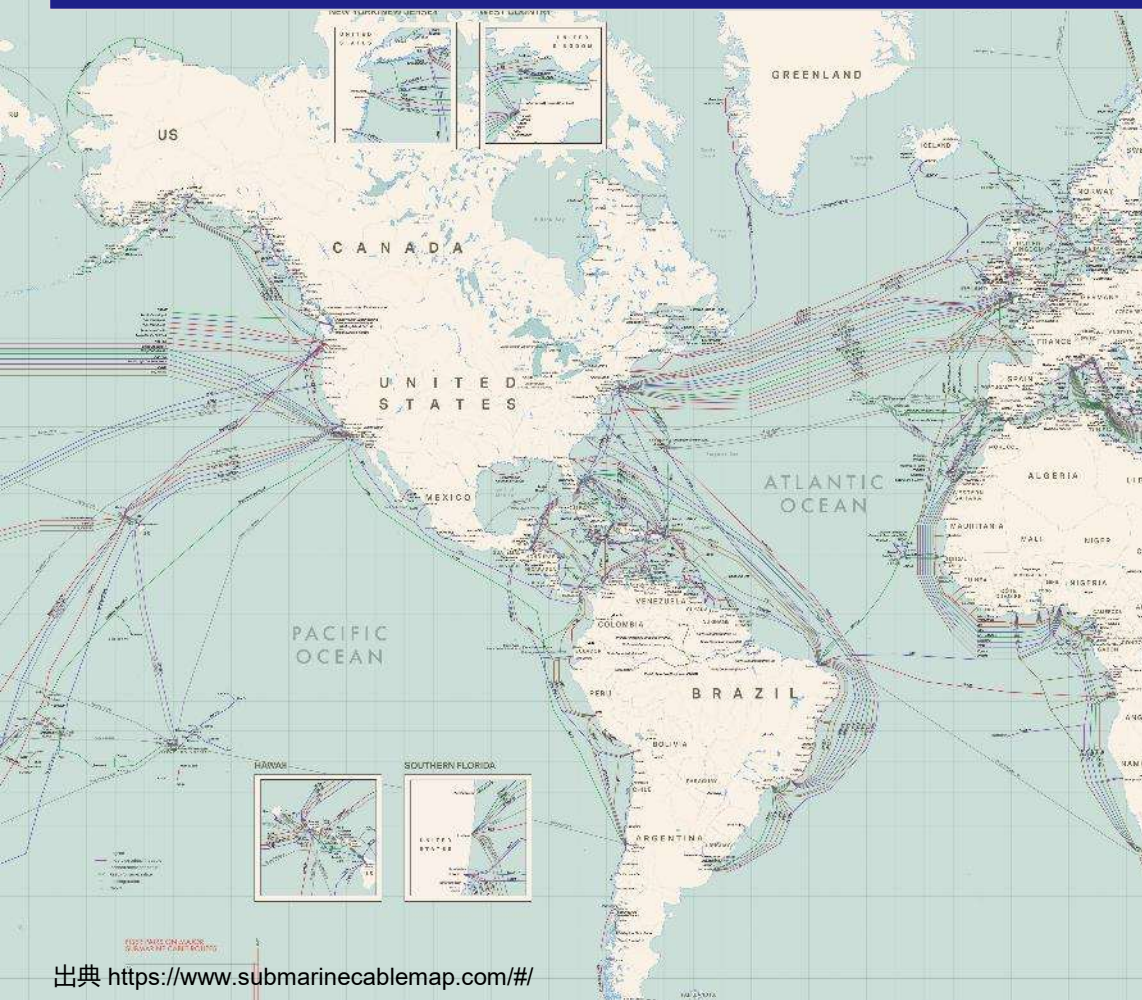
当社の経営環境

	26年12月期当初（2月時点）コメント	2026/12期2Qの状況	2026/12期3Q以降の見通し
(1)製品開発	● 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定 ● 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大 ● PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行	➢ 複合光デバイスの生産販売を開始 ➢ モジュール品は引続きサンプル評価中 ➢ マルチコアファイバ向けFIFOデバイスの生産ライン立上げ進行 ➢ 小型アイソレータ比率80% 従来型は20%まで低下 ➢ PLZT光変調器の開発成果がCLEO(Conference on Lasers and Electro-Optics)で採択発表	➢ 複合光デバイスの生産販売は、期初想定に対して大幅増額 ➢ モジュール品はライフテスト、その後生産販売へ移行 ➢ マルチコアファイバ向けFIFOデバイス、2026年末から陸上向けに生産販売 ➢ 小型アイソレータが主流となるが、顧客事由により従来型もある程度残る見通し ➢ 米国の前工程を9月に本社工場へ移設予定
(2)生産性他	● 半自動装置を活用し生産効率改善、生産能力拡大 ● データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加 ● 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加	➢ 3Q以降の受注増に対応しスリランカ工場での生産能力増強、さらなる増産対応として半自動装置増設に向けて準備 ➢ 光部品前工程の歩留まり改善進む ➢ 半導体製造装置、特殊光ファイバプリフォーム向けに引続き引き合い増加 ➢ 大型焼結炉増設、供給力を強化	➢ 半自動装置3号機を2027年立ち上げ、生産能力をさらに増強 ➢ 光部品前工程の能力増強投資を進め、2027年はさらなる売上増加を見込む ➢ 半導体関連、特殊プリフォーム分野で重点拡販を継続 ➢ 2027年に向けてさらなる能力増強投資を検討

海底ケーブルネットワークの長距離化、大容量化が進展

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図



<24FP以上の大容量プロジェクト>

プロジェクト	サービス開始	オーナー	距離	FP数
IOEMA-1	2029	IOEMA Fibre	1,667	48
Project Waterworth		Meta	50,000	24
Candle	2028	Globe Telecom, IPS, Inc., Meta, Softbank, Telekom Malaysia, XLSmart	8,000	24
Daraja	2026	Meta, Safaricom	4,108	24
Fibre in Gulf (FIG)	2027	Ooredoo	1,931	24
Hawaiian Islands Fiber Link (HIFL)	2026	Ocean Networks, University of Hawai'i	740	24
INSICA	2026	Singtel, Telin	100	24

<10,000km以上の長距離プロジェクト>

プロジェクト	サービス開始	オーナー	距離	FP数
Project Waterworth	2028	Meta	50,000	24
SeaMeWe-6	2028	Bahrain Telecommunications Company (Batelco), Bangladesh Submarine Cable Company Limited (BSCCL), Bharti Airtel, China Unicom, Dhiraagu, Djibouti Telecom, Microsoft, Mobily, Orange, PCCW, Singtel, Sri Lanka Telecom, Telecom Egypt, Telekom Malaysia, Telin, Transworld	21,700	10
Bulikula	2028	Google	21,600	N.A.
Asia Connect Cable-1 (ACC-1)	2029	Inligo Networks	19,000	16
Halahai	2028	Google	17,483	16
Honomoana	2027	Google	15,215	16
APX East	-	SUBCO	13,000	N.A.
E2A	-	Chunghwa Telecom, SK Broadband, Softbank, Verizon	12,500	12
ORCA	2027	Meta	12,482	6
Barat Timur Indonesia-2 (BTI-2)	2027	Super Sistem (PT Super Sistem Data)	11,600	N.A.
Africa-1	2027	G42, Mobily, Pakistan Telecommunications Company Ltd., TeleYemen, Telecom Egypt, Zain Omantel International, e&	10,000	8
Hawaiki Nui 1	2027	BW Digital	10,000	N.A.

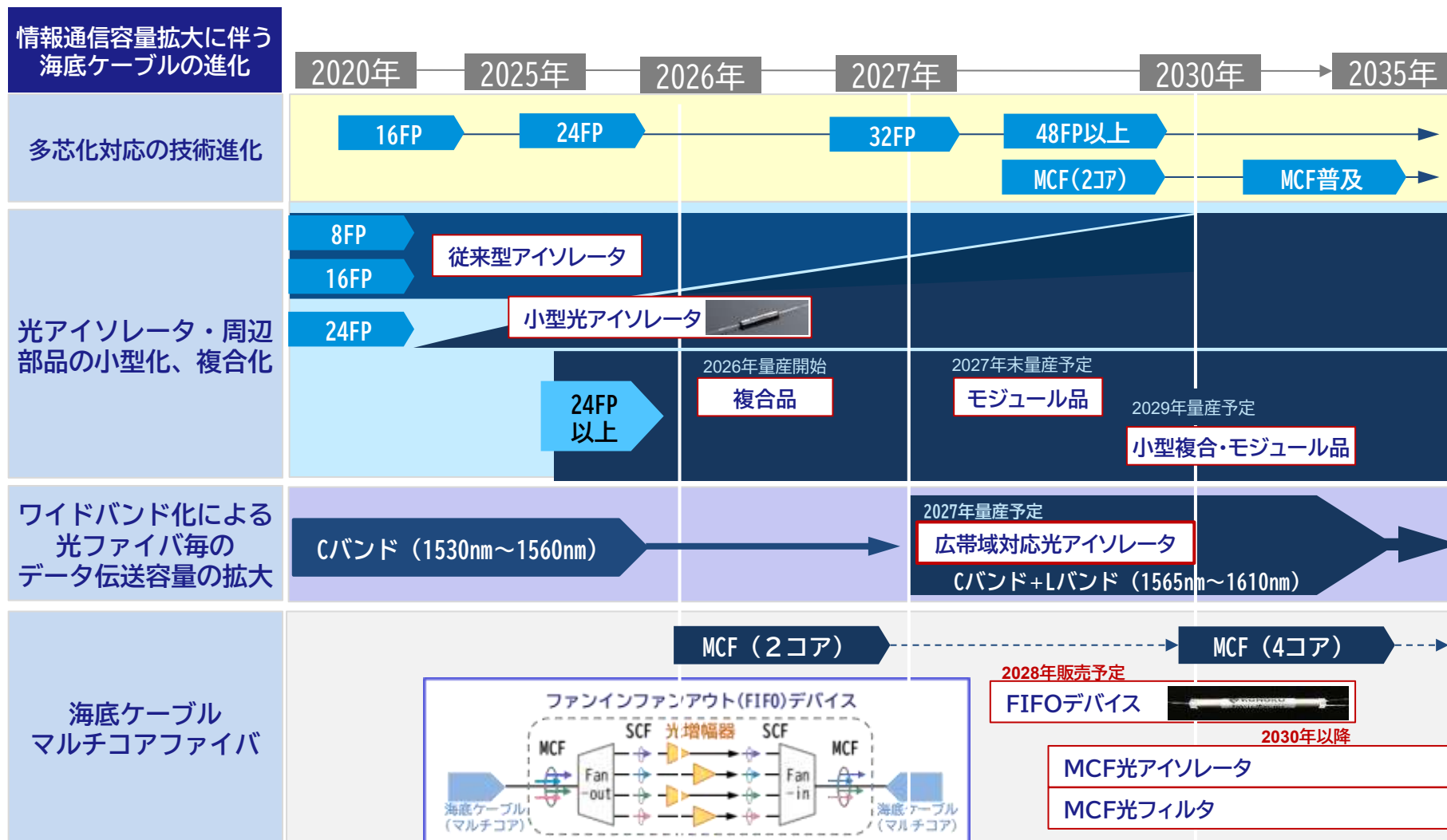
出典 <https://www.submarinecablemap.com/#/>

※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

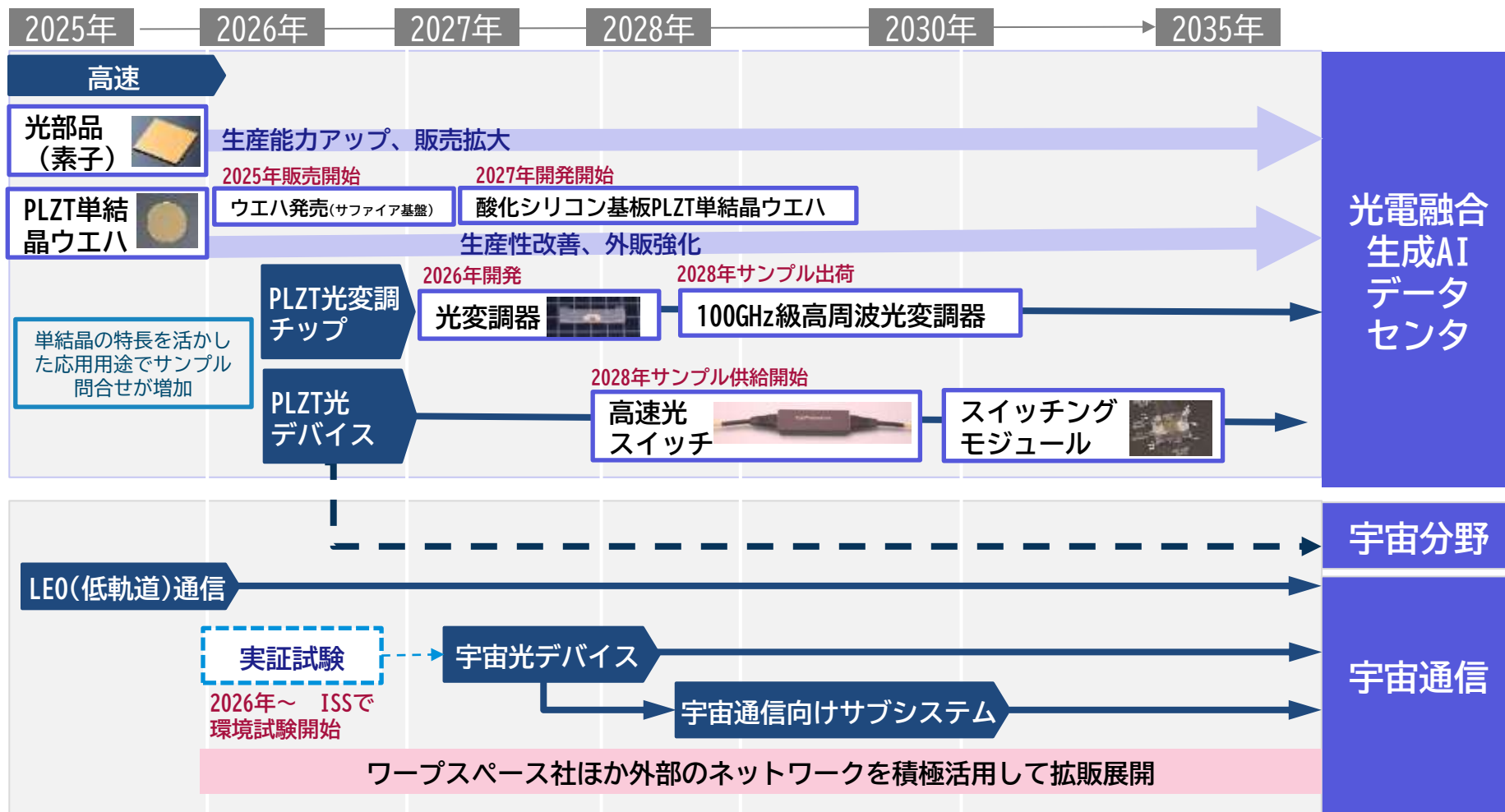
市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

海底ケーブルの多芯化の進行が加速、複合品・モジュール品の開発要求が増加



市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

PLZT単結晶ウエハの販売を開始、光電融合技術の進化に向けて大手通信機器メーカーの研究開発部門からの引き合いが増加

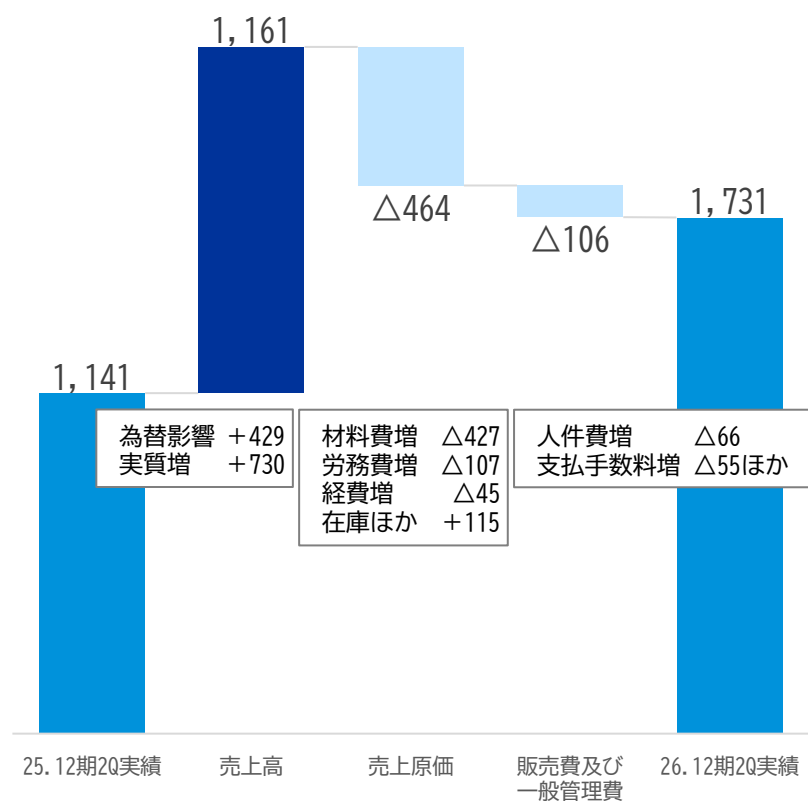


V. 参考情報

営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

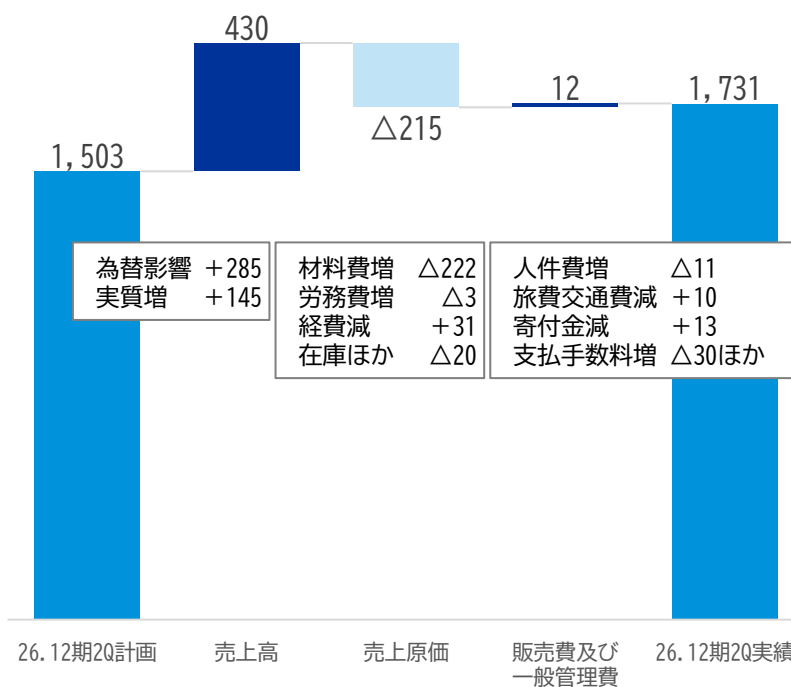
前年同期比

（単位：百万円）



計画比

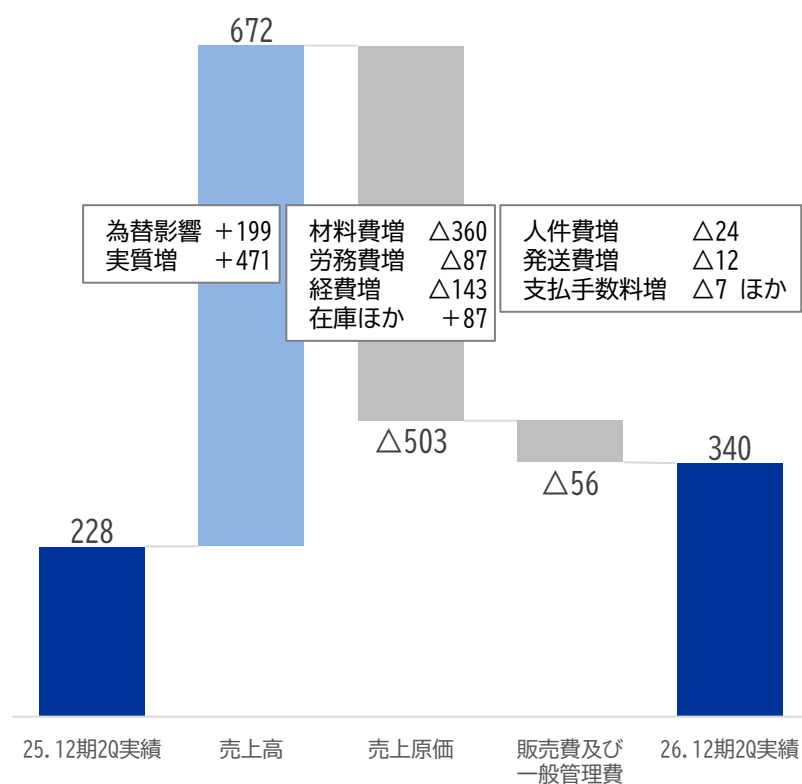
（単位：百万円）



営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

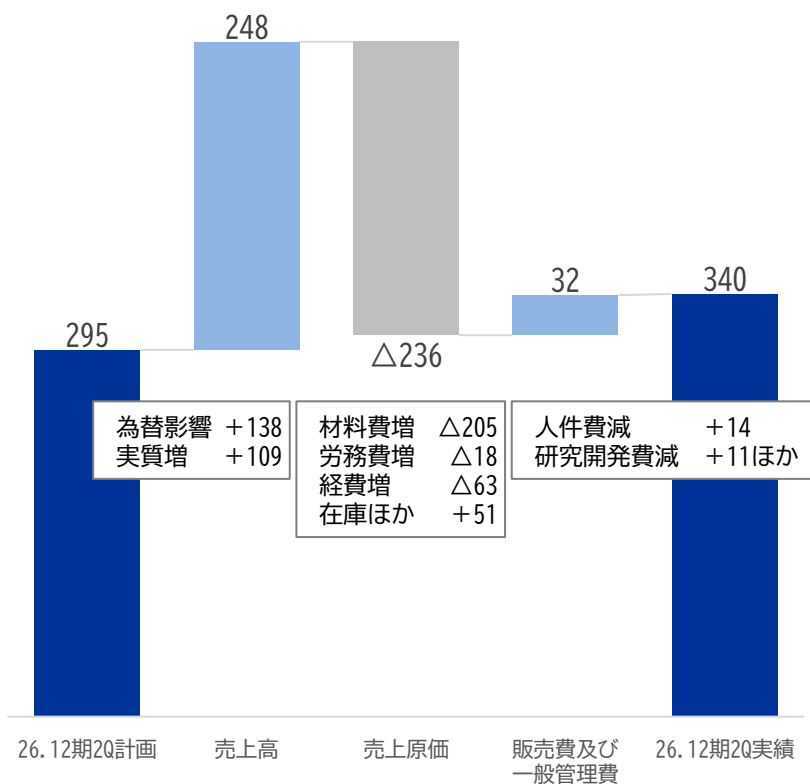
前年同期比

（単位：百万円）



計画比

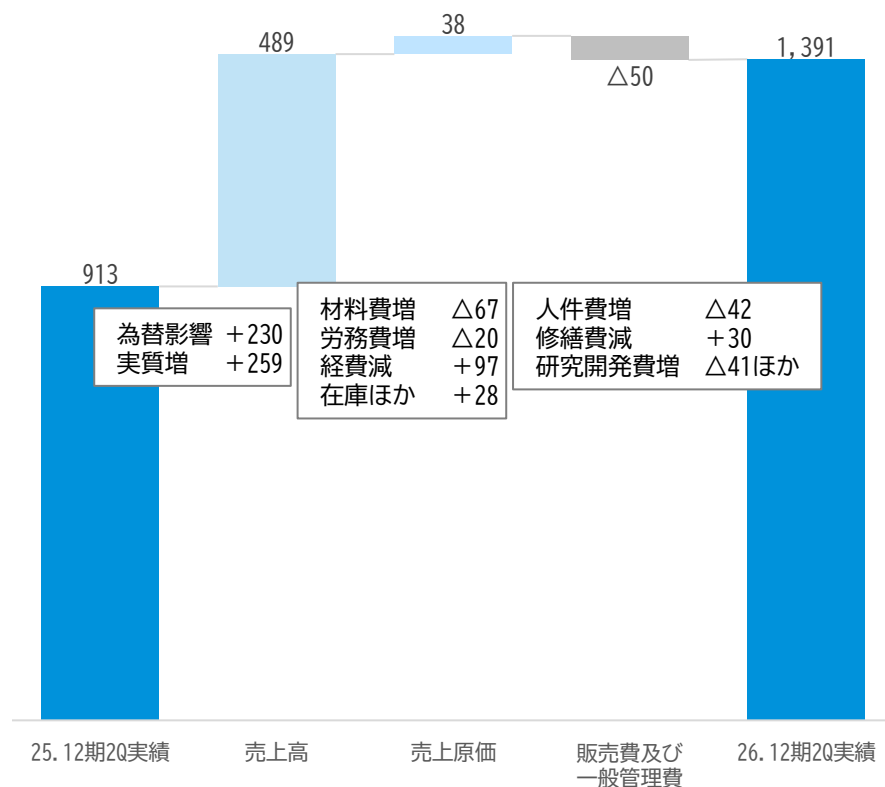
（単位：百万円）



営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

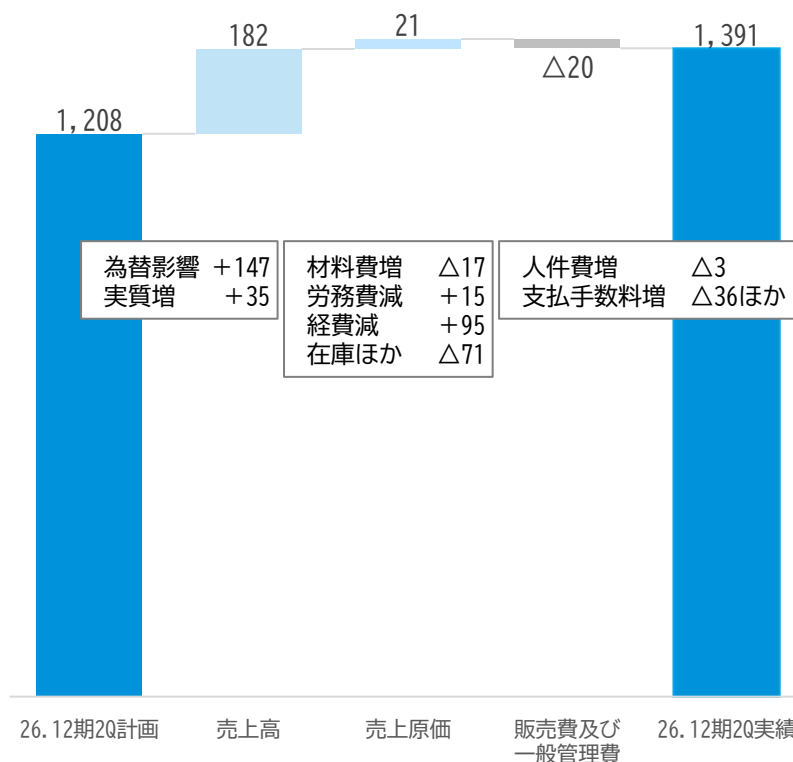
前年同期比

（単位：百万円）



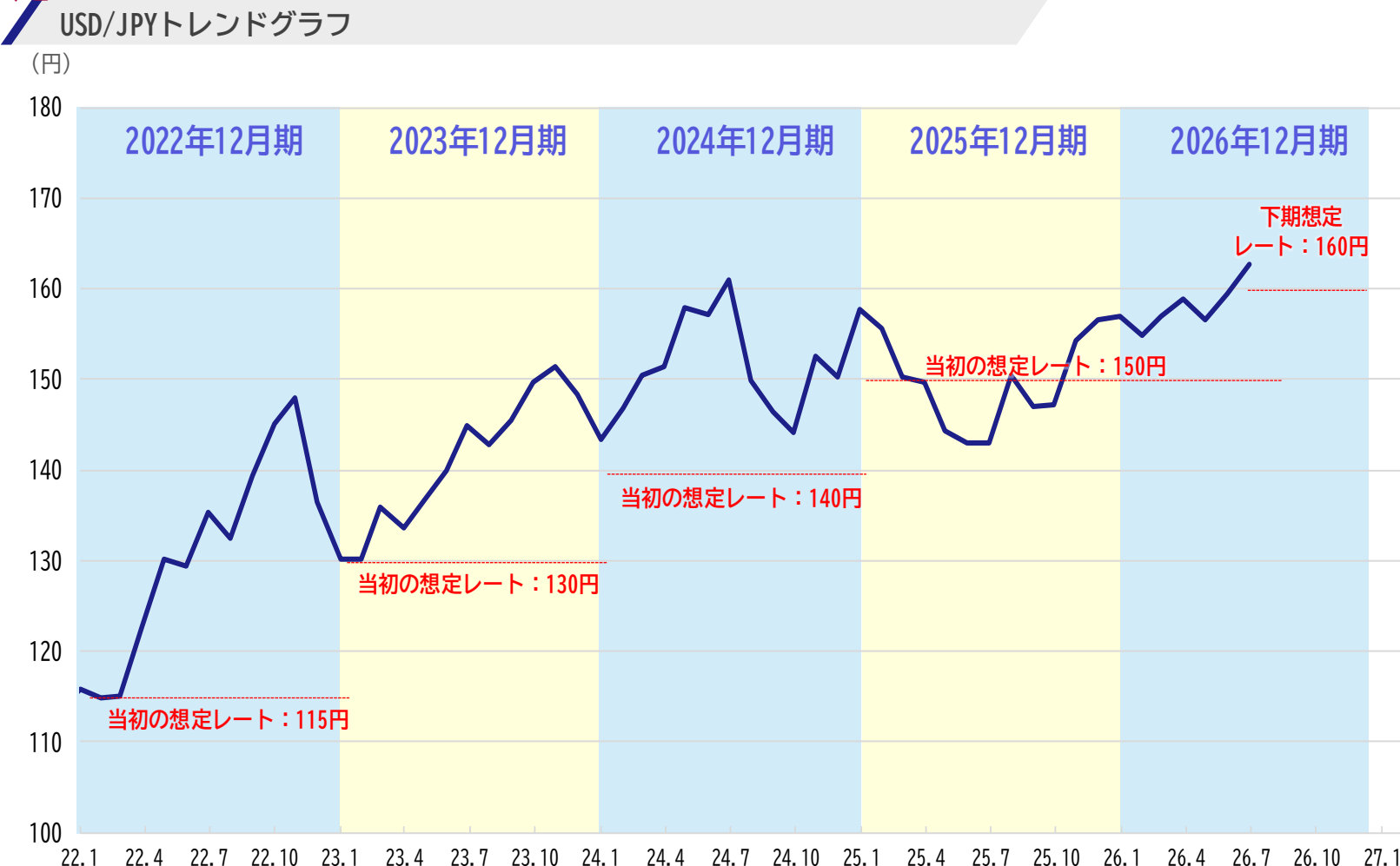
計画比

（単位：百万円）



2026年12月期(中間期)の事業環境

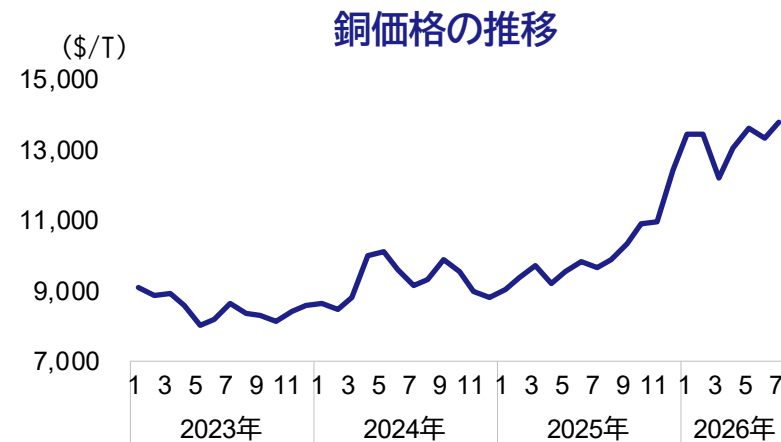
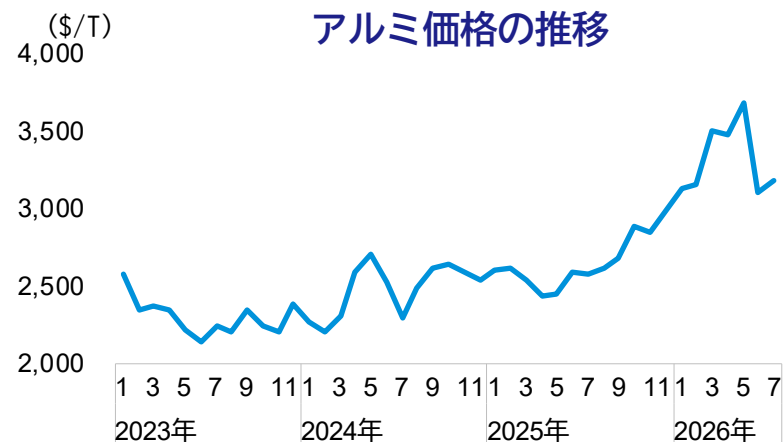
2026年期初の想定レート（150円/USD）に対して円安傾向、下半期の前提レートは160円に設定



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は上昇傾向が続いたが、下半期は落ち着くと推定。材料価格高騰によるコスト負担は原則3か月後に価格転嫁

非鉄金属相場（LME）の推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217